夢 駒澤会だより 第5号
(2006年1月1日)
発行：駒澤大学　駒澤会

◆◇◆もっと関心をかわし合う社会に◆◇◆

駒澤大学総長　奈良　康明

最近、漫画のオタク族だと自ら認めている青年といろいろと話し合う機会が多い。まじめな好青年である。オタク族、にもいろいろとあるのだろうが、人生を一生懸命に考えているし、現代社会に対する批評眼もしっかりしている。オタク族は、あるいは、現代の若者の考え方や思想をかなりの程度に代表しているのではないか、とさえ思い始めている。

いろいろ話を聞き、本なども借りて読んだが、いまの若者は「さめた」世界に住んでいるらしい。

今日の若者の一般的特徴として、自分の人生に目的意識を持ち得ないという。自分が生きている社会に特に尽くそうという気持も殆どない。目立つようなことをするのは浮き上がってしまうから嫌だという。だから自分の意見を言わない。何か言いたくても言わない。周りを見て、先ず人がどうするかを見てから自分の行動を決める。

しかし、それでは毎日生きていく希望も張り合いも持てないし、それは辛い。そこで、無理にでも、私は会社のために働いているし、それなりの意味があるのだ、と自分に言い聞かせる。そのくせ、その生きがいが無理につくられたイメージであることを本人が承知している。こうして、いわば、でっちあげられた生きがいを「社畜化」というのだそうである。自分自らを会社にこき使われる家畜の如き存在にする、という意味である。

私にはショッキングな表現だった。周りを見て自分の行動を決定し、無理に生きがいを造りだし、しかもそれが偽りのイメージであることを知っている。淋しい人生だろうな、と私は思う。心を許して話し合う家族や友人はいないのだろうか。

ある社会学者に、今の若者は孤独ではないか、と聞いたことがある。「そうでもない、携帯やネットで結構他人と接触し、情報交換しているではないか」という返事だった。そうだろうか、と私は疑問に思う。人間同士の連帯感は直接に出会い、会話し、仕事や勉強、訓練など体を動かして共に何かを行い、時には仲違いしたり和解したりするところに、相互に理解が深まっていくものであろう。そこにはじめて連帯感も生まれる。携帯やネットの「チャット」などは寂しさを紛らすことは出来ても、孤独を本当に克服する人間関係は出てこないのではないだろうか。

親子の断絶の例も少なくない。大学教員としての私のわずかな経験でも、両親と話が出来ない、あるいは話しをしない学生は意外に多い。親子の断絶にはいろいろな理由があろうが、しかし、子供は関心を持ってもらいたがっている。小言でも言い、褒め言葉でも言い、関心を持って貰いたがっているのである。社会的に孤独が好きだという人間はいない。「人間」とは人の間と書くが、他者との関わりを薄くされたら、まともな人間として生きて行くことは現実にも、そして心理的にも難しいものであろう。そのような意味で、私は子供と話をしない親は、結論的には、慈悲心に欠けていると言われても仕方がないと思っている。

慈悲とは、「他者を自分に引きあてて、良かれと思うことをする心、言葉、行い」だと、私はお釈迦様の言葉をそのまま受けがっている。他者への関心がないことが慈悲に反することなのである。慈悲の反対語は憎しみではない。無関心こそ慈悲の反対語だと言っていい。

親子や友人関係、知人だけではなく、社会全体がもっと互いに関心を持ち、慈悲をかわし合う生き方を、私たちの一人一人が努力する必要が要請されている時代なのではないだろうか。

◆◇◆秋の一泊研修旅行ー箱根ー◆◇◆

菊薫る秋の日

今回、駒澤会秋の研修旅行は１０月１日２日に実施。

日頃、何かとお忙しい方達も気軽に御参加戴けるように現地集合・解散で、箱根湯本の河鹿荘に宿泊して、温泉にのんびりとつかり、心いやされる一時を過ごして戴ければと計画致しました。

出発当日、私共は早目に新宿小田急線ホームに集合し、ロマンスカーに乗り、電車の中では、飲み物やお弁当を広げ、まるで修学旅行にでかけるような気分、話もはずみ、楽しい雰囲気の中湯本駅まで。

夕方六時からの研修会では、始めに奈良総長先生の法話の中で特に深く印象に残ったお話の文面を抜粋させて戴きました。

仏教讃歌

雨の降る日は　雨に濡れ
　風の吹く夜は　風に揺れ
身はさながらに　生きながら
　ちからあふれる　うれしさよ
ただ　願いゆく　みおしえを

わずらい多き　世にあれど
　今宵またたく　星のかげ
和み安ろう　寂けさに
　こころあふれる　よろこびよ
われら　われら　ああ　ともどもに

総長先生の法話を聞き、そのお話の内容から沢山のお知恵を戴きました。

仏様を巻きこんで、自分も努力するお力を与えて戴きたいと、仏様と一緒に心からお願いをする。

とても良いお話をして、戴きました。

引き続き宴会が始まり、磯田会長ごあいさつ、高笠副会長に乾杯のご発声を戴きました。

おなじみのくじ引き・抽選会、今回目玉であります争奪戦ジャンケンゲーム等大変盛り上がり、皆様と和気合々の時間を楽しく過ごし、親睦と交流を多いに深めることが出来ました。

閉会のあいさつを高見副会長にしめて戴き、宴会も無事お開きとなりました。

翌日、オプショナルツアーに参加希望の方達と箱根湯本駅から登山電車に乗り、目的地の箱根彫刻の森美術館へ。

車窓からは、秋を代表するすすきの群れも、金色に光って風に揺れている。

真赤な曼珠沙華も目に入ってくる。

何処までも高く澄みわたる秋の空、高原の吹く風がとてもここちよい、何処となく懐かしさも感じられ、小さな旅も、又一つ新しい発見があり、楽しい思い出になりました。

いつも楽しみに参加してくださる皆様、色々とお心遣いを戴きました方々、多くの皆様にご協力戴きまして誠にありがとうございました。

（厚生部　赤堀　記）

◆◇◆平成１７~１８年度の各部部長・副部長が決まりました◆◇◆

今年度は各部部長、副部長の改選の年ですが、委員総会後各部で互選、11 月の定例役員会で承認され以下の通り決まりました。

総務部長	新島　泰宏	広報部長	田中　隆一	厚生部長	赤堀　菊絵
総務部副部長	三崎　章子	広報部副部長	高橋　輝子	厚生部副部長	井上　俊夫
総務部副部長	吉田　洋一	広報部副部長	藤田　久子	厚生部副部長	山田　元弘

◆◇◆駒澤会の運営について◆◇◆

一般の株式会社の場合、最高の意思決定機関として株主総会があり、その下に社長をトップに頂く取締役会が会社業務を執行しています。これと同じように駒澤会の場合、最高の意思決定機関は毎年５月に開かれる委員総会で、その下にある役員会が委員総会の決定に従って様々な日常業務を決め、事務局の助けを借りて実行しています。役員の選任や役員会の運営は、平成 12 年以来の駒澤会改革方針に基づいて整備されてきた会則や各規程類に従って行われています。定例役員会は３ヶ月ごとに開催され、予算案や決算案のほかその都度提案された議題について、役員各位の熱心な議論の末に決定され、実行されています。

一番最近では、10 月度の定例役員会が少し遅れて 11 月 12 日（土）の午後に開催されました。この 10 月度定例役員会では、特に基金管理委員会から提案された駒澤会基金の運用方法を中心に、２時間以上に亘って白熱した議論が行われました。その結果新たな運用先として東京都債 5000 万円分（期間３年、年利率 0.48%）を購入する事となり、早速実行に移されました。

なお駒澤会の基金は、もともと創立当時に先輩方が 10 年近くに亘って営々として積み立てられたもので、２億７千万円余を保有していました。平成 14 年に大学側の要請を受けて、大学創立 120 周年記念事業にその中から 1 億円を寄付しました。その結果、目下運用中の基金は 1 億６千万円余りとなっています。基金の運用益は毎年学生に支給している総額 500 万円の駒澤会奨学金の原資に当てています。ところが現在は、過去に前例を見ない低金利です。そうした中で平成 16 年度は不十分ながらも 100 万円を越える運用益（税前）を上げる事が出来ました。なお 120 周年記念事業で拠出した寄付金は、駒澤大学会館 246 の建設費などに活用されています。

役員会は、会長・副会長の執行部のほか、総務部・広報部・厚生部の各部長・副部長、監査および大学側の代表として事務長（駒澤大学教育振興部長）で構成されていますが、各部の部長・副部長さんのなり手が少ないのが大きな悩みです。もともと駒澤会は、手弁当で駒澤大学の為にお役に立とうというボランティアの人たちの集まりです。維持会員の方々は、是非各部の部長・副部長としてあるいは各部のメンバーとして、駒澤会の運営に積極的に参加して頂けたらと希望しています。

（副会長　三宅　記）

◆◇◆忘年会レポート◆◇◆

１１月２６日夕方６時より新宿「隠れ房」に於いて今年の駒澤会活動の最後の締めくくりとなる忘年会が執り行なわれました。磯田会長はじめ３０名の会員が参加されて、美味しいお料理と、会話で、大変盛り上がり、楽しい賑やかな会となりました。二次会はカラオケで美声が響きわたり、この元気を来年に繋げて、楽しい会の忘年会は打ち上げとなりました。（副会長　高見　記）

◆◇◆会員紹介［大谷寿子さん］◆◇◆

駒澤大学の校内の売店・マルサ文房具店を経営しておられる大谷寿子さんにお話をお聞きしました。

大谷さんは昭和３年、現在の駒沢の交差点で洋品店を営まれる大谷定七、勝野ご夫妻の長女としてお生まれになりました。駒澤大学が、吉祥寺からこの駒沢の地に移って１０年後の事でした。駒澤大学は、もと「栴檀林」といい、水道橋（現千代田・文京区）にあった吉祥寺の中に作られ、僧侶の専門的な養成の場でした。明治１５年に、「曹洞宗大学」として一般に開かれた学校として、麻布区北日ヶ窪町で新たなスタートを切りました。それが更なる飛躍を遂げるのは、大正２年（１９１３）に駒沢の地に移ってからです。１月２６日開校式を行ない翌日より授業開始されました。しかし当初の学校周辺は、畑と草むらが一面に広がっていました。その中を学生が学校に向かって歩いていた事でしょう。そしてその後、次第に僧侶の子弟のみならず、一般の学生も通うようになりました。校内にも、秋山法衣店ができ、周辺にもカド薬局、松ノ湯、友谷理髪店などが開業し、駒沢郵便局もでき、次第に駒沢の町ができてきたようです。そうして１０年後の昭和６年に、先代の大谷定七さんが、同地で洋品店営みながら、その筋向いに売店の元となるマルサ文房具店（本店）を開店なさったそうです。駒澤大学に、次第にいろんな学生がやってくるようになり、駒澤大学が発展していくのを、文具を通じて応援していただいたのです。戦時中の、学業に燃えて文具を手にしたあの学生が戦争の犠牲にあった、そんな苦しい時期もじっと学生を見続けていたのです。

昭和４０年（１９６５）頃の売店

現在の大学内売店

そして終戦を迎え、昭和２４年、大学よりの要請があり、校内で文房具の販売を始められました。当時学内売店はマルサ文房具店と信和スポーツの二店だけで、しかも露天。雨が降り出すと店じまいをするという有り様だったそうです。その後の駒澤大学の発展はすばらしく、売店も駒沢書房、正光商事、カメラアート、紀伊国屋書店と増え、校内の売店としての体裁が整う基となりました。

昭和３９年の東京オリンピックに向けて、駒沢公園周辺から、国道周辺まで、大幅に道路拡張や区画整理がなされ、駒沢交差点にあった店舗も、移転か廃業のおそれがあったようですが、駒澤大学の発展とともにあった店舗をなくすのが忍びず、狭い三角形になってしまっても店舗を残しました。駒澤大学との関わりは、文具店だけではありません。ここで頑張って生きて、生まれた子供たちも駒澤大学と、切っても切れない関係を結んでいくことになりました。

先代の大谷定七さんの長女である寿子さんと、駒澤会との関わりは、昭和２２年、ご主人の登男さんと結婚され、長女静子さん、次女節子さん、長男不二夫さんと３人のお子さんがいらっしゃいますが、長女静子さん、長男不二夫さんが駒澤

大学卒業、また、現在、本店を営まれる長男不二夫さんの奥様も駒澤大学卒業とのこと、長女の静子さんの卒業を機に入会されました。会にはご主人の登男さんが参加しておられましたが、平成１５年に他界されたため寿子さんが引き継ぎ参加されるようになったそうです。

今年の夏の納涼会「屋形船」に元気に参加されましたが、６月１６日に脳梗塞で倒れられ、我々広報部の面々も療養の邪魔にならないのかと思いながらお邪魔しましたが、処置が早く、適切であったため、回復も早くお元気な様子で一同、安心しました。

（広報部　田中　記）

◆◇◆ホームカミングデー＆オータムフェスティバル◆◇◆

11月3日（木）～5日（土）：オータムフェスティバル、11月5日（土）：ホームカミングデーが駒澤大学で開催されました。

私が青春時代に返った日

１１月５日　ホームカミングデーのイベント「ペギー葉山コンサート」のお誘いを受け、コンサート会場に入り、「学生時代」で幕が上がったその瞬間から私の頭の中は早くも青春時代に甦っていた。会場を見渡せば、元若者が多く音楽を楽しむ人ばかりに見えた。頭がリズミカルに動き、足元が自然に拍子をとる。四季のうた・赤とんぼ・ラノピア・サントワマミー等々歌の合間に、お喋りがあり、歌手生活６０周年の想い出、宮中園遊会での出来事、又コンサート直前に他界をされたご主人（根上淳氏）の事等を、楽しく又　少ししんみりと話されていました。

１曲　１曲がその時代を思い出させ、自分の時代に重ね合わせる曲が続き、仄々とした心になったり元気にさせられたり物想いに浸ることが出来たりと、私にはとても貴重な１時間でした。

帰り道に口ずさんでいたのはやっぱり　"赤とんぼ"でした。　（広報部　玉川　記）

"栄光のチャンピオンが誕生！！"

駒大で、今年１１月２０日に初の"第７５回全日本アマチュアボクシング"チャンピオン（フライ級）が誕生しました。その名は、岡田　隆志さん（文学部社会学科４年）、　１１月５日オータムフェスティバル当日、大学広場に特設リングが作られ、駒大ボクシング部のデモストレーションが行われました。

驚いたことに女子大生が１名含まれていました。可愛らしい華奢な体つきの学生さんでした。私の時代にはとても考えられませんでしたが・・・

今は、ダイエットを兼ねて街のジムに女性が通っている時代ですから当然かもしれません。（怪我が無ければ）彼女は都の大会で優勝しているそうです。今後も頑張れ！！

部員は皆スリムで筋肉質な好青年たちです。グローブが当たったなんとも云えない音がとても痛そうです。ボクシング部員の皆さんの今後の活躍を期待して多くの応援を宜しくお願いいたします。　（広報部　玉川　記）

◆◇◆平成17年8月～平成17年12月の主な活動◆◇◆

8月26日（金）	総務部会	平成17～18年度の部長、副部長選出
9月10日（土）	厚生部会	研修旅行準備
10月1～2日（土日）	研修旅行	箱根：河鹿荘
10月27日（木）	広報部会	駒澤会だより第5号打合せ
11月 7日（月）	基金管理委員会	
11月12日（土）	厚生部会	研修旅行反省会
11月12日（土）	定例役員会	
11月26日（土）	総務部会	新年賀詞交歓会二次会打合せ
11月26日（土）	忘年会	新宿：隠れ房
12月 2日（金）	道場寺拝観	
12月 8日（木）	広報部会	駒澤会だより第5号打合せ
12月10日（土）	厚生部忘年会	

道場寺拝観

新米広報部員にとって、第4号の「駒澤会だより」の記事の反響で、再び道場寺拝観が叶った事は大変嬉しく思い、前回は都合で参加出来なかったので、師走の二日は時間をやりくりして石神井公園駅に着いたら、すでに10名集まっていらして、多勢の参加に、これも嬉しい事でした。商店街、三宝寺池を通り抜け、石神井公園を歩きながら、高見副会長から11月に取り行われた普山式の様子をお聞きし、由緒あるお寺のようで、楽しみにしながら11時に到着。大村宣雄氏が出迎えて下さいました。

まだ木の香も匂う客殿に通され、お茶を頂きながら、今日のメンバー13名の名前の正しい読み方を確認され、駒澤会でのご縁をお話するうちにお昼の食事が用意され、昭和53年に漬けられた梅酒の食前酒に始まり、庭でなった銀杏、柚子で造られた柚子釜の酢物等、自然の恵みをさりげなく活かしたお料理が漆塗りの最後は一つの椀に納まる食器で出され、本当に自然の恵みに感謝の心でご接待をいただきました。

坐禅堂にて普山式の式次第等を拝見し、奥様からもいろいろお話を伺うことが出来ました。由緒ある格式の高いお寺であることがよく解りました。客殿、坐禅堂、廊下から東司まで、又お庭の落葉一枚無いまでに隅々まで行届いたお掃除にはただただ感嘆し、安らぎの空間に居させていただいて、あっという間に時が過ぎて行きました。

一年余の準備をかけ、一世一代の大行事を終えられたばかりで、おくつろぎの所、お邪魔致し本当にありがとうございました。でもこれで名実共に東堂様（ご隠居）になられ、お身体も元気になられたようですので、駒澤会にも、又お出かけ下さいますようお願い致します。　（広報部　吉田　記）

編集後記

この秋の良き日に紀宮様がご結婚なされた。披露宴は質素で堅実な心温まるものであった。ご家族の絆・愛情ほのぼのとしたものが伺われた。これは駒澤の気風にちょっと似たものがあるのではないでしょうか？我々駒澤会も回を重ねつつ議論し合いながら、これからの運営方法、奨学金の資金繰りと頑張っています。楽しい行事もいろいろとあり、今回もいい会報がだせ心嬉しく思っています。

（広報部　藤田　記）